



SSH通信 No.6

令和4年度 第6号 9月7日発行
千葉県立佐倉高等学校
Chiba Prefectural Sakura High School

令和4年度SSH生徒研究発表会

8月3日(水)～4日(木)の2日間、全国200校余りのSSH校の代表生徒が神戸国際展示場に集い、令和4年度SSH生徒研究発表会が開催されました。会場は物理・化学・生物・地学・数学・情報の分野ごとにブースが分かれており、距離を十分とった上で対面形式でのポスターセッションが行われました。本校からは、3年理数科の蜷川千里さんが化学の分野で、「銅を用いた赤色ガラスの作製 - 見えてきたスズの可能性 - 」というテーマで、これまでの研究成果を発表しました(写真①②)。審査員や他校の生徒に対して、実験データや実物を示しながら、笑顔で堂々と発表を行いました。ガラスの着色というテーマが身近なこともあって、聴衆者が絶えることなく大盛況でした。全国から集まった様々な分野の研究をしている高校生の発表を聞いたり、交流したりすることは、とても刺激的で楽しく、貴重な経験となりました。



写真①(発表用ブース)



写真②(ポスター発表)



写真③(代表発表)

第46回全国高等学校総合文化祭

8月2日(火)～4日(木)の3日間、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会(とうきょう総文2022)自然科学部門発表会に3年理数科の北野圭一君、杉山竜弥君、藤永隼君の3名が参加しました。北野君と杉山君は、物理部門で「直流電圧をかけた時の流体の変化」、藤永君は地学部門で「南海トラフ地震の液状化に備えて、地盤を構成する粒子の粒径を考える」というテーマで日頃の研究の成果を発表しました。発表時間は12分間以内、それに加えて4分間の質疑応答の時間がありました。質疑応答では質問できるのは高校生と審査員と制限はありましたが、日本全国から集まった代表者が顔をそろえた大会であり、いずれも活発な質疑応答がなされました。最終日の3日目は、東京都の高校生が企画した生徒の交流会が行われ、大変リラックスしたムードで親交が深められたようです。また、東京大学医学部在学中、デジタルハリウッドとのダブルスクールで3D CGの技術も習得し、現在、医療CGプロデューサーとして活躍されている瀬尾拓史氏による「医療×3DCG=?」というテーマでの記念講演がありました。医療への3DCGの本格的利用を例に、1つの事を突き詰めていく研究もあるが、異なる専門分野の融合により新しいものが(技術)が誕生することもあるという講演でした。大変内容の濃い、充実した3日間でした。



写真④(開会式)



写真⑤(発表の様子)



写真⑥(会場前にて)